

1 単元（題材）名 沖縄の文化や環境問題

2 本時

(1) 本時の目標

- ・アメリカ軍基地の移転問題における論争を通して、住民間の対立や合意形成の難しさを理解させる。
- ・辺野古にアメリカ軍基地を移転させる政府側の意見、それを反対する沖縄県知事や住民の意見の両方を理解させる。

(2) 本時の評価規準

- 知識・理解：沖縄でのアメリカ軍基地の移転問題が起こっている要素を理解している。
- 思考・判断・表現：アメリカ軍基地の移転問題について、資料などから事実を判断し、根拠を持った主張をすることができる。
- 資料：事実を理解するために、資料を正しく読み取ることができる。
- 関心・意欲・態度：授業に意欲的に参加している。

(3) 学習の展開

展開	発問・指示	教授・学習活動	資料	学習内容・期待する答え	指導上の留意点
導入	<p>・現在、日本では人口が減り、地域財政が困難になっている都市が多くあります。</p> <p>・そこで、君たちがもしそのような地方都市の長になったら、どのような政策で町を立て直したいと考えますか？</p>	<p>T. 説明</p> <p>T. 発問</p> <p>P. 答える</p>		生徒の自由な意見	発表しやすい雰囲気作り

展開 1	<ul style="list-style-type: none"> ・最近ニュースでよく取り上げられる辺野古へのアメリカ軍基地の移転に関する記事を読んでみましょう。 	T. 指示	① 地 図 帳 P73	政府と沖縄県がアメリカ軍基地の移転について対立している。	代執行とは、国に代わって都道府県が行う法定受託事務について、知事による手続きに違反などがあり、放置すると著しく公益を害すると判断された場合、担当大臣が知事に代わって是正する地方自治法の手続き。担当大臣は知事が勧告・指示を拒否した場合、代執行に向けた訴訟を高裁に起こすことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間基地や辺野古は沖縄のどのあたりに位置するのだろうか。 	T. 発問 P. 答える			
	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、アメリカ軍基地を普天間から辺野古に移転しようとしているのだろうか。 	T. 発問 P. 考える			
	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間基地ではどのようなことが問題だろうか。 	T. 発問 P. 考える			
	<ul style="list-style-type: none"> ・辺野古に移転すると解決されるのは、何だろうか。 	T. 発問 P. 考える			
	<ul style="list-style-type: none"> ・辺野古に移転することの問題は何だろうか。 	T. 発問 P. 考える			
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内の約 4 分の 3 のアメリカ軍基地がある沖縄県内で 	T. 発問 P. 答える			
			②	<ul style="list-style-type: none"> ・基地の周りに住宅地が密集していること。 ・アメリカ兵による少女暴行事件が発生した。 ・住宅地ではない地域なので、住民への被害が軽減する。 ・辺野古の海を埋め立てることにより、きれいな海ではなくなってしまうから。 ・他県に移転すればいいのではないか 	

	<p>基地を移転させないといけないことについて、どのように考えるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県に基地があることの危険を背負わせることは公平であるか。 ・もし、自分たちの住んでいる地域にアメリカ軍基地が移転してきたら、どう思うだろうか。 ・NIMBY 概念について説明する。 	<p>T. 発問 P. 答える</p> <p>T. 発問 P. 答える</p> <p>T. 説明</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・公平ではない ・反対する or 仕方がなく引く受ける ・どうでもいい など <p>NIMBY 概念とは「社会的な必要性は分かるが自分の裏庭には望まない」という考え方や態度</p>	
展開 2	<ul style="list-style-type: none"> ・4 人のグループに分けて、アメリカ軍基地を辺野古に移転することについて討論をさせる。 4 人を A 沖縄県知事役(反対派) B 沖縄県住民(反対派) C 沖縄県住民(賛成派) D 他府県に行った若者役(どちらの立場 	<p>T. 指示 P. 活動</p>	<p>A④ ⑤ ⑥ B⑦ ⑧ C⑨ ⑩ ⑪ D⑫ ⑬ ⑭</p>	<p>資料をもとに与えられた立場の意見を形成する。</p> <p>トゥールミン・モデルに基づいたワークシート</p> <p>A の立場の生徒の回答 反対</p> <p>なぜなら、沖縄では意に反した基地が造られ、日本のために負担を負い続けてきたという歴史があり、私は、アメリカ軍基地を設置するという危険性は、沖縄だけで解決するのではな</p>	

	<p>にもなれる) の四つの立場に分ける。 そして、立場ごとの資料を配付し、それをもとにワークシートに自分の意見を書く。</p> <p>・グループ内でそれぞれの立場から意見を発表させる。 そして、辺野古にアメリカ軍基地を移転させるかの賛成反対の討論をさせる。 グループ内で討論された内容をホワイトボードに書いてもらい黒板に貼ってもらい、内容をクラスで共有する。</p> <p>・内容共有後、生徒自身がとりたい立場で、意見を形成する。 ・再度賛成派と反対派で討論をさせる。</p>	<p>T. 指示 P. 活動</p> <p>T. まとめ</p> <p>T. 指示 P. 活動</p> <p>T. 指示 P. 活動</p>		<p>く全国で解決していく必要のある問題であると考えからである。</p>	
<p>終結</p>	<p>・討論を通しての感想をワークシートに記入させる。</p>	<p>T. 指示 P. 活動</p>		<p>賛成反対の折衷することが困難であったことを理解する。</p>	

(5) ワークシート

あなたの立場 ()

私はアメリカ軍基地を辺野古に移転することについて (賛成 or 反対) です。

なぜなら、



ということがあ

り、

私は、



と考えるからです

あなたの立場 ()

私はアメリカ軍基地を辺野古に移転することについて (賛成 or 反対) です。

なぜなら、



ということがあ

り、

私は、



と考えるからで

す。

授業を振り返っての感想

(6) 参考資料

①<https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>

2015/11/25 **辺野古**移設 沖縄県 国を提訴へ 埋め立て承認 取り消し停止に対抗

沖縄県の**米軍普天間飛行場**（宜野湾市）の名護市**辺野古**への移設を巡り、沖縄県は24日、翁長（おなが） 雄志（たけし） [知事](#)による埋め立て承認取り消し処分の効力を一時停止している国土交通相の決定について、取り消しを求める訴訟を起こす方針を固めた。提訴には県議会の議決が必要なため、翁長氏が同日、県議会与党会派に明らかにした。政府と沖縄県の対立は、双方が提訴する異例の展開になる。

[行政事件訴訟法](#)に基づく取り消し訴訟の提起は、[地方自治法](#)で議会の議決が必要。与党会派の県議によると、翁長氏は「（25日開会の）県議会に追加提案したい」と述べたという。議案は12月中旬に可決する見通しで、年内に提訴する環境が整うことになる。

辺野古移設を巡る政府と県の対立では、国交相が翁長氏を相手取り、移設先の埋め立て承認の取り消し処分を撤回する「[代執行](#)」に向けた訴訟を起こしている

②<http://www.kanekashi.com/blog/2010/04/1227.html>



◆ 辺野古移設を巡る 政府と沖縄県の主張

無断政府禁止	県 無断
<p>法的^{かし}瑕疵はなく、 取り消しは違法</p>	<p>仲井真弘多 前知事によ る埋め立て 承認手続き 法的瑕疵がある ので、取り消しが 相当</p>
<p>沖縄県の基地負 担軽減につながる</p>	<p>辺野古移設 の是非 沖縄県の過重な^運 基地負担の固定 化につながる</p>
<p>行政の継続性とい う観点から、 前知事による埋 め立て承認に基 づいて進める</p>	<p>辺野古への 移設作業 裁判所の判決が 出るまでは、移 設作業は中絶す るべきだ^{無断}</p>
<p>辺野古移設を一 方的にやめれば、 日米両国の信頼 関係に亀裂が^手 り、崩壊しかねな い</p>	<p>日米安全保 障条約への 影響 沖縄県だけに押 しつけるのでは なく、日本国民 全体で安全保障^運 は考えるべきだ</p>

「自然豊かな辺野古の海を埋め立て、耐用年数200年と言われる基地を建設することは、何があっても容認できない」と述べ、全面的に国と争う考えを示した。

先となっているグアムを訪問しました。
そして、アメリカ側に移転を早期に実現するよう要請したんです。



これには沖縄の負担軽減を進める、政権のいわば本気度を示すねらいがあるわけです。
また政府は、普天間基地のオスプレイの訓練移転などを進めて、沖縄の負担を全国で分かち合う努力を続けたいとしているんです。

●政府は裁判に勝てる強い自信を見せている 翁長知事は“基地は造らせないし、造れない”と話しているが、沖縄はこれからどのように闘おうとしているのか？

中村記者：翁長知事は、政府と対立が続く今の状況を『沖縄は海に浮かぶ木の葉のようなもの』だと例えていて、この現状に対して、極めて厳しい認識を持っているんです。
しかし、移設計画の阻止に向けて、あらゆる手を尽くして、決して諦めない考えです。



●菅官房長官との最後の協議のあと、翁長知事は“お互い70年間、別々に生きてきた”と話しているが、そこにはどんな思いが込められているのか？

中村記者：沖縄では意に反した基地が造られ、日本のためにその負担を負い続けてきた。その沖縄の歴史に共通の理解を築くことができず、政府からは突き放されたような思いを抱いたのだと思います。

なぜ辺野古への移設に反対するのか。

その背景には“負担を全国で分かち合ってもらいたい”という、沖縄からの切実な訴えがあります。

「基地依存」に変化 「跡地利用」で

43年前の今日、本土に復帰した沖縄。

当時、アメリカ軍施設は経済を支える大きな柱でした。

アメリカ軍の施設での雇用のほか、主にアメリカ兵を客とする店など、基地に依存する経済構造があるとされていました。

しかし、復帰から40年で県民総所得のうち、アメリカ軍施設からの収入の割合は徐々に低下。

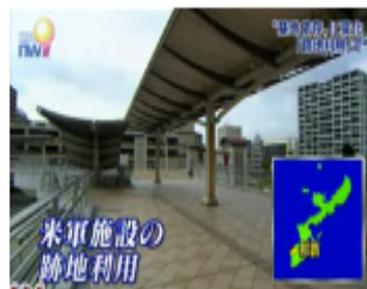
3分の1程度まで減っています。

実は今、沖縄の経済はかつてないほど好調です。

日銀那覇支店によりますと、沖縄の景気は20か月連続で拡大しています。

好調な経済を支える1つが、返還されたアメリカ軍施設の跡地利用です。

復帰当時、県の面積の12.5%を占めていたアメリカ軍施設の5分の1は返還されています。



例えば、かつてアメリカ軍の住宅地だった那覇市の新都心地区。

28年前に返還され、マンションや免税店などが次々に建設されました。

観光客や県外からの移住者を見込んだ再開発が成功し、住宅地の価格は県内で最も高い地域となりました。



沖縄県 翁長知事

「基地がなければ食っていけないとっていた沖縄が、米軍基地は沖縄経済発展の最大の阻害要因であるといっても、誰もこれに文句をつけることなく「本当にそうだ」という認識に変わった。」

B 配付資料⑦ クローズアップ現代 2015/11/19 “辺野古移設” 対立の深層

一方、県内への移設では沖縄の負担は変わらないと反対する人もいます。
普天間基地のそばに暮らす宮城政一さんです。



宮城家代々の土地はアメリカ軍に強制接収され、今は基地の中にあります。
11年前には、宮城さんの自宅近くにヘリコプターが墜落する事故も起きました。



宮城政一さん

「騒音は慣れっこにさせられているが、しかしヘリが墜落したりするのは我慢できない。」

宮城さんは、速やかな返還を望む一方で、県内への移設には抵抗があると言います。

宮城政一さん

「辺野古の人はいざ基地になった場合、後で後悔するんじゃないかな。
経済的に少し恩恵もあると思うが、長い目で見たら子や孫に苦勞をかけると思う。
そういった面で同じ苦しい思いを名護の人にさせたくない。」



B 配付資料⑧ 西部朝刊 2011/10/10

普天間移設 辺野古 動き加速 閣僚続々、決起集会も 政府・容認派



普天間移設

この空増しは、
(松浦舞)

●街頭で稲嶺市政を批判する
移設容認派の名護市議●移設
に反対する人たちの活動拠点
「ハンド村」(ごうごも)店
沖縄県名護市



配布資料◎ クローズアップ現代 2015/11/19 “辺野古移設” 対立の深層



“辺野古移設” 対立の深層

“辺野古移設” 住民の思い

辺野古の住民からは、政府の振興策に期待する声も上がっています。

地区で商店を営む許田正儀さんです。



許田正儀さん

「これがレストラン、『ナンバーワン』という店だった。」

かつて、隣接するアメリカ軍基地から多くの兵士が訪れた辺野古の町。

しかし、大きな産業はなく、人口は大幅に減少しています。

以前は騒音を心配し、移設に反対していた許田さん。

しかし今は、振興を条件に基地を受け入れることもやむをえないと考えています。



許田正儀さん

「自分たちの力ではもう限界がありますから。

だからどこも受け入れなかった代替施設を地域が条件付きで受け入れて、よそから羨まれる地域になれば、これにこしたことはない。」

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾（ぎのわん）市）の名護市辺野古（へのこ）への移設をめぐり、政府は今月末にも仲井真弘多（ひろかず）知事に公有水面の埋め立て申請を行う方向で調整を進めている。ようやく前進の兆しが見えてきた移設問題。移設先の辺野古には、期待を込めて推移を見守る容認派の人々がいた。

移設予定地の漁業権を持つ名護漁業協同組合は11日、名護市内で臨時総会を開催し、埋め立てへの同意を賛成多数で決めた。今後、補償交渉で妥結すれば、知事が埋め立て許可を出す際に必要となる同意書を国に提出する。

「漁民が後悔しないよう、それなりの補償は求めていく。これからしっかりふんどしを締めてかかる」。容認派の中心人物の1人でもある古波蔵（こはぐら）広組合長は総会后、そう語った。

辺野古地区は、総会が開かれた市街地から山を隔てた東海岸にある。米軍の海兵隊が駐屯するキャンプ・シュワブのゲートを過ぎ、山中をうねる国道を曲がれば集落入り口だ。かつて米兵向けに営業していたバーやスナックの空き家があちこちにあり、うらぶれた雰囲気は漂う。

「地元の7、8割は移設賛成だ。この通り産業も仕事もない。基地があれば集落も潤う。生活が第一だ」

住民の男性（69）が教えてくれた。「反対しているのはよその人ばかり。あそこも本土の人が半分で、地元の人ほとんどいない」と、反対派のテント村が陣取る海岸を指した。

キャンプ・シュワブは辺野古を含む久辺（くべ）三区の住民が自ら誘致。基地とともに街は発展し、辺野古は一大歓楽街として栄えた。今や往事のにぎわいは皆無だが、地区行事での交流など米軍との関係は良好だ。

「県外移設」の大合唱と地元の声にギャップがある背景には、沖縄の「南北格差」という問題がかいま見える。名護など北部は人口比で1割程度で、経済は大きく立ち遅れている。日々、基地と向き合う地域が寂れ、基地負担の「見返り」で栄えるのは中南部一。そんな「不平等感」を漏らす住民は少なくない。

ある住民の男性（62）はこう訴えた。

「南の人は基地返還で街が発展するから、簡単に『基地はいらない』という。ここにあるのは山（やん）原（ばる）と水だけで、企業誘致もままならない。基地と共存共栄する。そんな夢しか描けない場所なんです」（千葉倫之）

C 配布資料⑩ 社説 辺野古法廷闘争 普天間の危険除去こそ公益だ 2015/11/19

翁長氏は、**辺野古**移設に反対を唱えるばかりで、普天間飛行場の危険性除去への言及は少ない。

菅**官房長官**が「翁長氏から解決策を聞いたことは全くない。沖縄県の関係者を含めた、これまでの努力を無視している」と批判したのは、理解できる。

辺野古移設は、日米両政府と地元自治体が長年の厳しい協議と決断の末、「唯一の現実的な解決策」と判断した案だ。沖縄県内も反対一色ではない。政府は、移設作業を着実に進めるべきだ。

D 配付資料⑫ ANN ニュース 2014/10/03 [http://news.tv-](http://news.tv-asahi.co.jp/news_politics/articles/000035897.html)

[asahi.co.jp/news_politics/articles/000035897.html](http://news_tv-asahi.co.jp/news_politics/articles/000035897.html)

安倍総理大臣は、2日の参議院本会議で沖縄の普天間基地について、名護市辺野古への移設が負担軽減につながると必要性を強調しました。

安倍総理大臣：「辺野古において埋め立てる面積は、全面返還される普天間飛行場の面積と比べて3分の1以下であり、大幅に縮小されます。訓練等で日常的に使用する飛行経路については、現在は市街地の上空です。これが移設後は、周辺の集落から数百m離れた海上へと変更されます。このため、騒音も大幅に軽減されます」

安倍総理は、普天間基地が担う3つの機能のうち、辺野古に移る機能はオスプレイの運用だけで、空中給油機の運用と多数の航空機を受け入れる基地機能は、本土に移転すると強調し、移設の必要性を訴えました。

配布資料⑬ 2015/11/27 朝日新聞 夕刊

政府は27日、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先としている同県名護市**辺野古**周辺の3地区に対して、今年度1地区あたり最大1300万円を直接支出すると発表した。反対する沖縄県と名護市の頭越しに地元と直接交渉し、移設の流れを進める狙いだ。

中谷元・防衛相が同日の記者会見で発表した。該当するのは**辺野古**周辺の「久辺（くべ）3区」（**辺野古**、豊原、久志（くし））だ。

補助対象は、伝統芸能事業やスポーツ大会といった「日米交流に関する事業」▽交通安全講習会や防災教育啓発、防犯灯設置などの「住民の生活の安全に関する事業」▽集会施設の改修や増築などの「その他生活環境の整備に関する事業」。いずれも経費の全額を補助する。

3区からの申請に基づき年内にも支給する。今年度予算の在日米軍等駐留関連諸費を財源とし、来年度以降も支出する予定だ。県や名護市の反発が予想されるが、中谷氏は「久辺3区には最も大きな影響を与える。政府としてできる限り配慮する。地方自治に反するとの指摘は当たらない」と語った。（二階堂勇）

■ 辺野古の歴史

辺野古は那覇より67km、名護市街地から南東へ12kmの沖縄本島東海岸に位置する総面積10.83k㎡の村落です。

戦後間もない昭和23年頃には戦前の集落形態に復興し、140世帯、634人の、海辺ののどかな農村集落でした。



昭和23年頃の辺野古集落

➤ キャンプシュワープ

農村であった辺野古は、基地という経済基盤の元に地域開発を進めるために、有志会では軍用地契約に踏み切り、昭和32年に基地建設が着手されました。



基地のゲート



基地内のビーチ



基地内の全貌

➤ アップルタウン

基地建設の着工を機に新しいまちづくりの機運が高まり、昭和33年に上集落のまちづくりがスタートしました。このまちづくりにおいて多大な協力をしてくれたアップル少佐に因んで町名が「アップル町」と命名されました。その後、この開発によりまちは急成長し昭和40年には309世帯、2,139人の規模となりました。



(See Story, Page 11)

THE dream of the future that is the town of Apple-town, the 50-acre tract of land overlooking the village of Henoko on Okinawa, is shown taking shape in these pictures. Largely responsible for the boom now taking place in the village is Lt. Col. Harry Apple, until recently a USCAR land officer. When he arrived in April 1964...



沖縄県名護市辺野古への米軍新基地建設に反対する集会が29日、東京・日比谷野外音楽堂で開かれました。会場から人があふれ、参加者は4500人（主催者発表）。地元沖縄から代表3人が訴え、「NO BASE」「美（ちゅ）ら海 埋め立てるな」など書かれたプラカードをもった参加者は、「基地をつくるな」とコールしました。主催は「止めよう！辺野古埋め立て 国会包囲実行委員会」です。

沖縄から、ヘリ基地反対協議会の安次富（あしとみ）浩共同代表、島ぐるみ会議から高里鈴代、大城紀夫（連合沖縄会長）両共同代表がスピーチしました。

安次富さんは、安倍政権による新基地建設と戦争法の強行にふれ、「民意を無視して、アメリカに従う政治はアベコベ政治だ」と批判しました。

高里さんは、訪米団に参加した経験を紹介しました。「米国政府に、あなたも当事者だというメッセージを伝えました」

大城さんは、「沖縄と同じように全国で、労働組合と市民が一緒になって、辺野古の基地を止め、安保法制阻止のための共同をつくっていききたい。安倍政権を打倒するために頑張りましょう」と語りました。

この日の集会に協力した「総がかり行動実行委員会」から福山真劫さん（戦争をさせない1000人委員会）、菱山南帆子さん（解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会）、小田川義和さん（憲法共同センター）の3氏があいさつ。全労連議長でもある小田川さんは、「沖縄だけのたたかいにせず、戦争法反対と同じような運動を全国でつくろう」と呼びかけました。

料理研究家の枝元なほみさん、一橋大学名誉教授の田中宏さんが発言。安保破棄中央実行委員会や全労協、SEALDs（シールズ）をはじめ、さまざまなグループがリレートークし、新基地建設を許さない決意を表明しました。

息子に会うために東京を訪れたという福島県いわき市の男性（82）は、「沖縄の人と思いは一緒。自分の気持ちを表すため参加しました。辺野古に新基地はつくらせない」と話しました。

集会後、参加者は都内をデモ行進しました。